

高校間格差と高校教師

小島秀夫（茨城大学）

問題

高校間格差が問題とされるようになってからかなりの時間が経過しているが、高校間格差が解消される様子はなく、むしろ格差は拡大・固定化しているようである。一方、最近の高校生の態度変容は急激であり、高校教育は多様な問題を抱えていると考えられる。

しかしながら、これまでの教師の研究をみると高校教師を対象とした研究は意外に少ないのである。底辺校や教育困難校で教えている教師による感動的な本も出版されているが、他の高校と比較した場合にどのような差があるのかは理解できない。この点を理解するためには、高校教師を対象とした調査がなされなければならないが、高校間格差を視野に入れた調査はあまりなされていないようである。今回、文部科学省の科学研究費によって茨城県と大阪府の公立高校の教師を対象として意識調査を実施することが可能となったので、その結果を報告することとする。

データ

ここで使用するデータは 2001 年 2 月から

3 月にかけて、茨城県と大阪府の公立の高校教師 1,000 人（茨城県 500 人、大阪府 500 人）を対象とした意識調査で得られたものである。調査では高校の特徴を調べるために、「あなたが勤務されている学校では、以下のような生徒がどの程度いると思いますか。それぞれについて教えてください」と質問して 13 項目を用意し、それぞれの項目について「かなりいる」「ある程度いる」「あまりいない」「まったくいない」の選択肢の中から 1 つを選んでもらった。調査方法は郵送調査法を使用し、有効回収率は 62.3%であった。サンプリングの方法は系統抽出法である。

分析結果

用意された項目は、以下のようなものである。(1)基本的な生活習慣が身についていない生徒、(2)基礎的な学力が身についていない生徒、(3)授業に関心を示さない生徒、(4)勉強一般に関心を示さない生徒(5)学校でタバコを吸う生徒、(6)教師に反抗する生徒、(7)髪をそめたりしている生徒、(8)通学途中などでタバコを吸う生徒、(9)教科書などを学校に置い

表 1 勤務校の特性(%)

項 目	かなりいる	ある程度	あまりいない	まったくいない	無回答
(1)基本的な生活習慣	37.6	44.1	17.2	1.0	0.2
(2)基礎的な学力	39.3	35.0	22.8	2.9	0.0
(3)授業	33.7	47.0	18.3	1.0	0.0
(4)勉強一般	33.4	43.8	19.9	2.4	0.5
(5)学校でタバコ	19.9	43.3	32.3	4.2	0.3
(6)教師に反抗	7.7	39.2	48.5	4.3	0.3
(7)髪をそめる	32.4	51.7	15.4	0.5	0.0
(8)通学途中にタバコ	17.8	47.4	31.3	3.4	0.2
(9)教科書	75.1	19.6	4.8	0.5	0.2
(10)自分の将来	30.5	55.1	13.8	0.3	0.3
(11)協調	12.0	61.2	26.5	0.3	0.0
(12)社会常識	28.4	52.6	17.8	1.0	0.2
(13)自分勝手	26.8	53.9	18.3	1.0	0.0

ておく生徒、(10)自分の将来に対して希望をもてない生徒、(11)他の生徒と協調できない生徒、(12)社会常識に欠けている生徒、(13)他人のことを考えずに自分勝手にふるまう生徒。表1に単純集計の結果が示されている。

教師の勤務する学校の特性が高校によってどのように異なっているのかを明らかにしてみよう。調査では高校の種類は「あなたが勤務されている高校は進学校といわれる高校ですか」と質問し、「進学校」「どちらかといえば進学校」「中間校」「どちらかといえば進学校ではない」「進学校ではない」の中から1つを選択してもらった。教師の18.5%が「進学校」に勤務し、「どちらかといえば進学校」が15.4%、「中間校」17.8%、「どちらかといえば進学校ではない」14.1%、「進学校ではない」33.5%、無回答が0.6%であることが明らかにされた。

高校間でどのような差が認められるのだろうか。ここではスペースの関係で、「かなりいる」の比率にのみ注目してみることとする。表2にその結果が示されているが、高校間でかなりの差があることが理解できよう。たとえば、「基礎的な学力が身につけていない生徒」が「かなりいる」の比率は進学校では3.5%であるものが、進学校でない高校では77%

となっている。その他の項目についても、同様な傾向が認められる。

学校の特性は教師の意識に多様な影響を与えていると思われるが、ここでは教師の「やりがい」感にどのような影響を与えているのかについて検討してみることとする。調査では教師の「やりがい」感を調べるために、「あなたは、現在の職業にどの程度やりがいを感じていますか」と質問し、「非常にやりがいを感じている」「すこしやりがいを感じている」「あまりやりがいを感じていない」「まったくやりがいを感じていない」の選択肢の中から1つを選択してもらった。結果は、「非常にやりがいを感じている」が39.3%、「すこしやりがいを感じている」49.4%、「あまりやりがいを感じていない」10.4%、「まったくやりがいを感じていない」0.5%、無回答が0.3%であり、高校教師は全体的にやりがいを感じていることが明らかにされた。

13の学校の特性の中でどの項目が「やりがい」感と関連しているのかを調べてみたが、相関係数の値が相対的に大きなものは「教師に反抗する生徒」「他人のことを考えずに自分勝手にふるまう生徒」「基礎的な学力が身につけていない生徒」「授業に関心を示さない生徒」であることが明らかにされた。

表2 高校別にみた「かなりいる」の比率(%)

項 目	進学校	やや進学校	中間校	やや進学校でない	進学校ではない
(1)基本的な生活習慣	5.3	14.6	27.9	43.2	67.9
(2)基礎的な学力	3.5	10.4	26.1	43.2	77.0
(3)授業	2.6	9.4	32.4	33.0	61.7
(4)勉強一般	3.5	6.3	30.6	39.8	60.9
(5)学校でタバコ	1.7	3.2	16.4	18.2	39.7
(6)教師に反抗	0.0	1.0	5.4	4.6	17.2
(7)髪をそめる	17.4	20.8	30.6	28.4	47.8
(8)通学途中にタバコ	3.5	2.1	11.7	14.8	36.5
(9)教科書	49.6	69.8	81.1	83.0	84.7
(10)自分の将来	7.8	18.9	18.9	39.8	50.0
(11)協調	3.5	4.2	8.1	11.4	22.5
(12)社会常識	4.3	10.4	19.1	27.3	54.5
(13)自分勝手	7.8	12.5	20.7	23.9	47.4